

第1回品川区長期基本計画策定委員会 議事要旨

日時：平成31年1月9日（水）14:00～16:00
場所：品川区役所 議会棟6階第1委員会室

議事次第

1. 開会
2. 委員等委嘱
3. 区長挨拶
4. 委員等紹介
5. 諮問
6. 委員長挨拶

■委員長

この委員会の委員長というお話をいただいたときに、実は私、この基本構想を定めたときも前回の改訂版のときも、このような会議の司会進行をさせていただいているので、あまり同じ人間が10年以上するのはいかなものかと内心考えたのですが、今回は副委員長もいらっしゃるし、それから参与の先生方もいらっしゃるし、何よりもこの品川区の委員会のそれぞれの代表者の皆さんは、今までのこの種の会でも、とても活発にご発言いただけるので、私は自分の価値観ではなく、司会進行をさせていただけばいいのかと、そう考えましたので、そういう立場に徹したいと思っています。その割には言いたくなれば意見を申し上げるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いします。

一つだけ申し上げておきますと、東京には23区ありますが、私が長年勤務しました東京都の立場から言いますと、近年また都市構造が23区の中で大きく変わっています。一昨年東京都ランドデザインということでまとめましたし、それから来月、都市計画審議会土地利用計画を決めますので、もうその中身は既に事実上公表されていますので、ご存じの方もいらっしゃるかもしれません。要は、東京の中でのいわゆる都心的な機能を持つというのが、従来この20年ぐらいは、山手通り内側という言い方を東京都の都市構想の政策ではしていましたが、事実上環七内側に広がってきたというのが、各種の数字、統計、その他で出ています。これはある意味、皆様の実感とも一致しているかもしれません。品川区は昼夜間人口比率が140パーセントを超えていますので、そういう意味ではかなり働き場所があるということです。

それから、品川区はきれいに環七の内側に入っていますけれども、他のよく都心9区とか都心14区とかそういう言い方をしますが、都心9区という場合は品川区まで入ります。それから、都心的な14区という言い方をする場合は、環七側の各区の、中野区とか杉

並区みたいに、中に環七が通っていますというところの環七の内側は割と都心的な要素が近年目立ちます。要素が目立つだけですが、そういう現象が見られます。ですから、町丁目別というのですが、各町の1丁目とか2丁目ごとに色分けをして、何が一番多いかという統計がございまして。これは全て都庁のインターネットのウェブサイトに乗っていて、どなたでも取り出せることができるようになっていますが、それで見ますと大体環七内側がかなり容積率の使用状況なども高いということがあります。これは行政区域の、中野区や杉並区で取ると、中野区や杉並区は割と住宅的な要素が強いのですけれども、その中でも環七の内側はかなり都心的機能が見られます。

それからもう一つは、木造密集地と昔言いましたが、今はむしろそれよりも高経年マンションという言い方をするのですが、旧耐震でできたマンションが40年経ちまして今東京では急増中でありまして、これが環七の内側に目立つということがあります。たまたま千代田、中央、港の3区がもう都心居住は要らないと、要らないとは言っていないが、優遇措置をやめるということを決めましたので、そういう意味ではある意味、環七内側で高経年マンションの建て替えがこれから進んでいくということと動きが一致しているという面があります。来月、都市計画審議会で決定します東京都の土地利用計画では、低街区とか総合設計、再開発促進区、高度利用地区、そういった都市計画の上での容積率の上乗せ基準を環七内側に広げるということで、高経年マンションの建て替えを促進していく、それだけで促進されないとはいいますが、その他の政策と相まってそれが必要である、40年以上たった高経年マンションが次々地域の中で増えていく、というのが大体環七内側の特徴ですので、それを何とかしたいという思いを込めた土地利用計画を決めるということになっています。

そういう意味では、実はこの間、12年とか10年、8年の節目で品川区はいろいろな構想や計画をつくってまいりましたけれども、ある意味私たちが品川区で実感している状況と、それから23区の中での品川区の持っている位置というものでいうと、ある意味そういう全体の流れの中で品川区はどうしていくか、ということになるかと思えます。もちろんそれだけではなく、それは全体の都合ですので、皆様のお持ちの価値観はとても多様化してきていると思いますので、それらを反映していくことができればいいかと、そう考えていますので、どうぞよろしくお願ひします。

7. 委員会運営について

*事務局より資料5について説明

■委員長

ただ今、配付資料全体でどういうものがあるかという説明と、合わせて本委員会の公開基準、傍聴に関する取り扱い要領等の説明がありましたので、これでよろしいですか。

■委員

資料ナンバー5の公開基準案ですけれども、やはり議事録は、要旨ではなく全文公開がふさわしいと思います。冒頭区長のご挨拶にもあったとおり、非常に重要な使命を持っている会議ですし、今後の品川区の流れをつくっていく会議ですので、お一人お一人の発言をしっかりと記録するためにも、全文公開がふさわしいと思うので、ここは変える必要があると思います。

次のページの傍聴に関する取り扱い要領の傍聴できない者の具体的事例が書かれていますが、恐らく時代的な背景があって、昔からこういうものかと思います。例えば、銃はそもそも携帯してはいけませんし、のぼり旗やヘルメット、拡声器、ラッパ、パイプなど、ここまで今の時代に具体的に列挙しなくても、括弧7の議事を妨害することを疑うに足りる顕著な事情ということで、十分具体的に言い尽くしているのではないかと思いますので、ここも率直に言って変える必要があるのではないかと思います。以上です。

■委員長

ただ今の意見に対して何か他の方で意見がある方はいらっしゃいますか。いらっしゃらなかったら、委員長としてはそういう意見もあったということで、品川区のこの種の各種委員会の取り扱い、全体のルールというのが確立していますので、ただおっしゃる内容は踏まえて今後運営していきたいと考えますがいかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、そういうことでよろしくをお願いします。

8. 審議

*事務局より資料6-1、6-2について説明

■委員長

ただ今事務局から、人口を中心に資料の説明がありました。これらについては、第2回目以降でも議論するところですが、ここでどうしても質問しておきたいということがありましたらお受けしたいと思います。いかがですか。

よろしければ、今日は第1回ですので、委員の方、全員の方に、何でも結構ですが、自己紹介でも結構ですし、団体の紹介でも結構ですし、あるいはこの委員会にどういったことを期待して参加しているのか、あるいは結果として基本政策がどうあるべきかということについてのご意見をお伺いしたいと思います。それを全ておっしゃってしまうと時間が足りなくなりますので、人数的にいうと36人いらっしゃいますので、1人が1分半ぐらいということで大変申し訳ないのですが、今日は全員の方がどういう声をしているかお互いに知るということをやりたいと思います。いかがでしょうか。最後に副委員長から一言、まとめか感想かコメントか、何でも伺いたいと思います。その前に参与の方にもできれば

一言ずつお願いできればと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

それではまずグループ別でいきますと、関係団体と公募区民の委員の皆様が人数的にしても一番多いですが、そのグループの委員の皆様から入りたいと思います。真っ先に発言したいという方がいらっしゃいましたらどうぞ。なければ席の順番でいいですか。安易な方法ですが、よろしければ。ではお願いします。

■委員

いろいろ人口の比率と増減について説明をいただきましたけれども、今後ますます高齢化が進んでいくという中で、やはり福祉関係という比率というか比重が大変重くなっていくのかなあと感じています。そこで、やはり品川区の福祉関係に携わる職員を増やしていく考え方というか進み方というか、そのような提案もしていきたいと考えています。よろしくお願いします。

■委員

地区委員会連合会ですが、品川区には地区委員が 900 人ほど委嘱を受けています。地域事業を中心に私の場合はやっております。前回のこの会議で、輝く笑顔、住み続けたいまち、しながわ、という大きな流れがありましたが、この 10 年を見ますと、住みたい町のランキングというのが出てきています。皆さんご存じでしょうか。そのランキングでは、品川区は 4 位になっています。10 年前に品川区は出ていなかったのです。この辺の 10 年間の品川区の大きな変化ということも身近に感じています。それは教育なのか福祉なのか、あるいはアクセスの部分なのか、いろいろあるだろうと思いますが、いろいろな関係機関の皆さん、あるいは区の政策がうまく進んで、そういう結果になってきているのか、またリニアの影響もあるのか分かりませんが、いろいろな開発等々を含めた総合的なことで、そういうランキングが上がってきているということ自体が、非常に大きな変化になってきたということです。それで、あとは福祉、教育、いろいろなことの充実があって、大事なこれからの 10 年になると思っています。以上です。

■委員

このような大きな会議に出ること自体初めてなものですから、いきなり品川区の人口が何十万人とか言われてもよく分かりません。私どもは、健康づくりということで、高齢者に対して、家の中にこもったままではなく外へ出てもらう、そういう試みをやっています。ですから、どちらかといえば小さい意見になります。でも、だんだん高齢者が増えてきますので、もう少しどうやったら高齢者が 1 人で出て元気でやれるかということを考えていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

■委員

小P連で副会長をしています。生まれも育ちも品川区の東大井というところですが、品川区は子育てするなら品川区というように言われていまして、補助金も充実しているし、PTAをやっている者としては本当にありがたいと思っています。今後もPTA活動がやりやすいようにしていただければ、私としては助かると思っています。以上です。

■委員

今の情報をお聞かせいただきまして、PTAの立場からすると、年少人口が2026年ピークで、それまで増えるというところが一つびっくりしたところです。過疎化という中で、子どもが少なくなるという中で増えるということでびっくりしました。一方で、そこから落ちるといことが予測されています。そこが何が原因かということをしっかり考えなければいけないと思います。それから、思ったのが、こういった統計に合わせた施策をつくるという話なのか、それをより良い方向、目指す方向にインパクトを何らか与えるのかということ、その辺のところをバランス良くできればと思いました。どうぞよろしくお願ひします。

■委員

昨年まで2期4年間区政モニターをやっている、そのままの勢いでここに来てしまったかと思っています。結婚したときにここに住み始めて、1年後に子どもが生まれて、この前21歳の誕生日だったので、区民となって22年です。小学校でPTA会長をやり、中学校でPTA会長を1年、今に至っています。

自分が足に障害を持って、町中を車椅子で動くことが多くありまして、非常に動きにくいと思っていて、その辺が一番興味あるところで、まちづくりに非常に興味を持っています。よろしくお願ひします。

■委員

私は今、子ども子育て委員でお世話になっていて、今回こちらに公募させていただきました。普段は民間の企業で働いていることと、小さい会社を品川区で経営しています。なので、長期基本計画の策定というところや統計のことなどは、実際は全くの素人ですけれども、子どもを2人育てていまして、今品川区立の小学校のPTAもやっていますし、小学校に子どもを2人通わせています。子育てがしやすいということで、1歳のときに引っ越してきてからお世話になっています。こういうこともそうですし、いろいろな区の政策をつくるときに、なかなか民間でフルタイムで働いている女性の視点が、皆忙しくてこういうところには出て来られないので、なかなか反映されない、どのようなチャンスでものを言えばいいのかわからない、と常日頃思っていて、この施策をつくることはプロではありませんが、今増えている働く女性、お母さんの視点のようなところを何か役に立てたいと思っています。ここに来ました。よろしくお願ひします。

■委員

私は上大崎に住んでいまして、結婚と同時に品川区にまいりました。私ごとですけれども、私自身は家庭が転勤族でしたので、一つの町に住み続けるということはあまりありませんでしたが、今娘が中学2年生になりまして、これから10年間の計画というところで、娘や周りの若い世代に関係してくるこういう委員会に何かしらお役に立てることがあればと思って公募させていただきました。品川コミュニティ・スクールのコーディネーターとして、小学校で今務めさせていただいていまして、人と人とのつながりがどれだけ大事かを日々感じていますので、そのようなところを皆さんからお話を伺いながら、私自身の仕事といいますかコーディネーターでも役立てていけたらと考えています。よろしくお願ひします。

■委員

先ほど人口のお話もありましたけれども、少子高齢化ということで、これからだんだんお年寄りの方も増えてくるし、どうしたらいいかというのが問題になってくるのではないかと思います。そのような問題がこれからどんどん出てくると思いますので、それをどうしたらいいかというのを皆さんと一緒に検討したいと思ってここに参加させていただいています。高齢者だけではなく、先ほども子どもの話がありましたが、若干品川区は教育がいいということで、この町に集まってくる傾向があると思いますので、高齢者と子育て、そういうところをしっかりと委員会で検討していただいて、より良い住みやすい品川区をつくっていききたいと思っています。皆さんと一緒にこれからいろいろ検討していききたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

■委員

私は福井県坂井市の出身ですが、品川区とその福井県坂井市が友好都市ということで、今まで以上に坂井市と品川区の関係が深いものになっていくといいと思います。品川区に引っ越してきてまだ2カ月なので、分からないこともたくさんあるので、この会議を通していろいろなことを知ることができればいいと思っています。よろしくお願ひします。

■委員

私は品川区社会福祉協議会の会長という立場で来ています。高齢なもので、品川区に生まれて82年経ちます。今回は私から皆さんにいろいろお話ししたいと思っています。私は企業経営を長くやっていました。企業経営的視点からいくと、この委員会では基本計画、品川区長期基本計画の10年後のあり方をつくりたい、ということかと思っています。それから、それにしたがって総合実施計画もつくりたい、ということかと思っています。また、財政はまるでやらないと、多分それも書いてあります。それは区の行政でおやりになる、あるいは区

議会がこれを踏まえて予算をつけていくということになると思います。私は品川区から多くの委託を受けて福祉の事業をやっているわけです。つくづく感じるのはやはり、財政が豊かだというのは非常にいいことだと、やはり品川区がこれだけ繁栄してきたのも、私などはもう品川区で 50 年やっていますが、本当に区民の皆さんの努力もありますけれども、やはり日本国全体の経済成長、それから東京都という、今度 1 兆円ぐらい地方に持っていかれるそうですけれども、私個人的には 1 兆円で済むなら安いものだという感じがします。これはあまり言えませんが、公的には大反対と言わなければいけない立場ですが、ですからそういうことを踏まえてやっていかなければいけません。特に品川は財政能力があって、赤字はほとんどありませんでした。健全な財政をしていますから、非常に皆さんが活発に意見を出されて、それを裏付ける財政があったのは非常にめでたいことであつたとお話ししまして終わりにします。

■委員

東京商工会議所品川支部の会長という立場で出席させていただいています。私は大崎の駅前でコンピューター関係の仕事をしています。初めての参加ですので、よろしくお願ひします。私としましては、東京商工会議所ということで、都内の産業構造がやはりいろいろ変わってきています。昔は工場地帯でしたけれども、商業やサービス業、最近では IT という話まで出てきていまして、いろいろ変わってまいりました。そこに勤める人、あるいは五反田バレーという、勤めるのと住むのも安いという話があつて人が集まっているという背景もありますので、そういった視点で品川区の産業が良い方向に行くような意見を申し上げたいと思っています。

それから先ほどのご説明で外国人の話がありましたが、全体としては 2 万人ぐらいという話でした。今回の法改正は非常に拙速に決まった話ですので、企業が面倒を見るなど、身近な例で言いますと、住民税の徴収の件など、いろいろ非常に難しい問題が外国人の方を受け入れるにはありますので、町としてはどうやっていくか、あるいは企業としての責任をどうしていくか、というような話もあるかと思ひます。身近に外国人の方が増えてくると思ひますので、そのような話も少し考えていきたいと思ひます。以上です。よろしくお願ひします。

■委員

品川産業協会の会長を仰せつかっています。どうかお見知りおきのほど、よろしくお願ひ申し上げます。弊社は、南品川 6 丁目、浅間台小学校の目の前に昭和 21 年に私の祖父、もう他界していますけれども、創業しまして、私は昭和 26 年、1951 年の生まれでして、今年で 68 年目、こよなく品川を愛し続けて 68 年目です。

オリンピックの次の年の 2021 年は古希というようなことで、だいぶ年齢も感じていますけれども、微力ではありますが、品川区の 10 年後 20 年後、いるかどうか分かりませんけ

れども、さらなる発展に向けて努力してまいる所存です。

一点図々しいお願いですが、冒頭、委員長より、確かにもう半世紀近く経っているマンションの対策・助成は本当に考えていかななくてはいけないことだと思います。区から本日素晴らしい資料をご提示いただきまして、人口の推移、世帯数、非常によく分かりやすいのですが、その中でも世帯数ゼロ、要は空き家、次回の委員会までにどのくらいの空き家があるのか。私も今、家内と共に一戸建てに住んでいますが、やはりマンションのほうがいい、戸締まりは便利だということで、マンション志向が出ています。今、空き家というのはどのくらいになってきて、10年後にはどのくらいの空き家が誕生しているのか、それに対する助成、何らかの対策を私はやっていかななくてはいけないのではないかと、個人的ですが、図々しいお願いを申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。以後、よろしくお願い申し上げます。

■委員

商店街は品川区の中で約105の商店街があります。その中の70商店街が区商連に加盟しています。先ほどからお話が出ている高齢化うんぬんというような形で、店主もどんどん高齢化になっていきます。そうすると、店をやめて貸す。そうすると、そここのところに入ってくるのはマッサージやコンビニなどというような飲食店が多いという感じがあります。そのように物販店がどんどん減ってくるというような形で、商店街の構造も変化しています。それに、どのように商店街は立ち向かっていかなければいけないのか。今、要するに商品を若い人たちが買うのはAmazonで電話をかけてしまえば、すぐ次の日に届く、そうすると配送システムうんぬんが非常に商店街はにぶいというようなところでは、何で立ち向かうのかというところを、今若い人たちをどんどん誘致する、またその商店街に対する考え方、見方というものを、例えば小学生、中学生という子どもたちにも、地域の商店街がやはりリーダーシップを取って中心になってさばいていかなければ地域は栄えないと考えています。ですから、あとは高齢化、今度はお客様の高齢化の難民問題、買い物難民というような形で、そちらをどのような工夫をして、また、我々商人が今まで50年何十年と店を開いているけれども、同じものを同じような形で販売していたのでは駄目ではないかと。今、コンビニでも、毎週月曜日、火曜日に新しい商品をどんどん出している、この辺の勉強不足というか、そういったものも皆で考えていく。それから先ほどの外国人が増えるというようなものに対しても、商店街に国際推進事業というようなもので、少しでも英語なり外国語に触れていくというような形のグループ勉強というようなものもしていきたいと思います。またいろいろとこういふ会議で教えていただいて、それを励みにまた頑張っていきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

■委員

公益社団法人東京青年会議所としましては、小学生を対象にしたわんぱく相撲ですとか、

そういったものを毎年開催しています。あとは学生向けの事業、例えば、英語に興味がない子に対して英語に興味を持ってもらうなど、そういった事業を毎年させていただいています。事業を行うにあたっては、ここにいらっしゃる皆さんにいつもお世話になっている団体です。今年もよろしくお願ひします。私個人としては、生まれは品川区小山の生まれでして、会社もそこに45年目になりますがあります。私自身このようなお話に大変興味がありますので、いろいろ勉強させていただきながら参加させていただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

■委員

私は連合品川の地区協議会の議長をさせていただいています。品川区ということでは考えた場合、私としてはやはり住んでいる方、そして働く方、そしてお越しになる方、やはりこの面から考えていかなければいけないということですが、我々はやはり労働者の団体ということもありますので、働く者ということの面から発言していきたいと思ひています。先ほども人口の統計の中でもお話がありましたけれども、昼間人口と夜間人口の割合からすると、働く方は減少傾向にあるというのが気になる場所ですが、政府でも70歳まで現役とか65歳まで働くようになったというように会社は言っていますが、生涯賃金は伸びていないということで、賃金が伴った働き方ができないかということではやはり考えていかなければいけないと思ひています。

そして、私はコナミスポーツクラブで働いています。スポーツクラブの運営をしていますが、お子さんの会員は最近増えてはいるのですが、残念ながら大人の会員さんは減っていているという状況で、健康志向が高まっていると言いつつも、参加人口は全く増えていないという状況があります。これに区政としてどのように関わっていけるかということも含めて携わっていききたいと思ひます。よろしくお願ひします。

■委員

私は現在、立正大学法学部で、国際人権法とジェンダー法と教えています。立正大学が品川区と連携協定を結んでいるという関係で、一昨年、総務部人権啓発課から、現在、男女共同参画のための品川区行動計画の改訂、品川区配偶者暴力対策基本計画の改訂、そして品川区女性活躍推進計画、この三つをまとめてマイセルフ品川プラン策定検討委員会が昨年からは開催されていまして、その委員長を務めている関係でこちらに参加させていただいたということでは。私の専門の方面からいきますと、国際的な人権基準、あるいはジェンダーの視点というものを反映させた計画というものを、現在この第5次の男女共同参画の改訂中心のマイセルフ品川プランというので努力している場所です。今回初めて10年、この31年からの10年間の計画の策定の案が終わりまして、今パブリックコメントをいただいて、最終段階に入っている状況です。今回初めて指標というものがありまして、10年間でどのくらい変化があったかというパーセンテージ、そのようなものを入れるよう

な試みを始めました。ということで、その計画にもぜひ国際人権、それからジェンダーの視点を反映させ、また明確な何か基本計画というものが実現できるような、そういうプロセスに大変関心があって、その視点から提案させていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

■委員

しながわ CSR 推進協議会からまいりました。本日は三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングの方がいらっしゃって、同席していらっしゃいますね。質問なのですが、今回のこの資料ですけれども、総務省発表の人口推移との違いがかなりあります。品川区の人口推移について、まだ伸びていきながら、この先緩やかで、低位も中位もそれほど大きく下がっていません。この辺の部分は、この元データは経産省のリーサスから持ってきていますか。それとも独自の何かデータを基にされているのですか。

■事務局

事務局からお答えさせていただいてもいいでしょうか。

■委員長

はい、お願いします。

■事務局

総務省が行っている人口推計、国全体それから地域に分けた人口推計というものがあります。そちらは国勢調査という5年に一度の調査を基に人口推計を行っているものです。品川区の場合は、基礎自治体ということで、住民基本台帳を持っていますので、こちらを基にその後、東京都、国の推計も勘案しながら、区独自という形で推計を今回は行っていたというところです。

■委員

ありがとうございます。分かりました。その中で、これが伸びている一つの要因として、出生率の向上と移動率、移動率は特に二十歳前後の方が非常に増えている、これは何か特別な理由があるのでしょうか。

■事務局

こちらの要因は常々分析を進めているところですが、出生率の向上につきましては、やはり区でもさまざま総合戦略というような計画を立てまして、区の合計特殊出生率を上げていこうということで取り組んでいる中で、そのような施策が功を奏しているという部分もあるかと思っています。もう一つ、いわゆる若者世代の方の転入が多いところにつきま

しては、やはり交通の利便性というところが一つ大きいと分析しているところです。

■委員

ありがとうございます。そのような結果が明確に出ているということは、この10年20年先の品川区の在り方に非常に大きな影響が出てきていると思います。良い面が出ていますので、ここをうまく品川区として捉えていただいて、計画を立てていければと私は思っています。もう一つ、先ほどもお話がありましたが、車椅子だけではなく、ベビーカー、そのような動きが品川区は非常によろしくありません。他の区と比べると、駅の問題もあると思いますが、そのようなものが旧態依然の都市計画のままというところもあります。段差があったり、エレベーターから遠かったりなかったり、目の前が階段だったり、そのようなところが非常に多いです。このようなところも今後ここに織り込んでいって、都市計画も、今地道にやられている出生率の向上、若い方の交通の利便、それだけではなく、これからバリアフリー的な考え方も持っていきながら、今後品川区も条例をつくるなどできると思います。都市計画の条例、建物をつくるときの一つの決まりごと、そのようなものをうまく取り入れながら、いろいろな世代が品川区に住みたいと、人が住むということがそこでやはり商売もよくなりますし、税収も高まります。他の区から奪い取るというようなつもりで、品川区のこの策定に、微力ながら私も参加させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

■委員

品川区文化振興事業団の理事をしております、大崎にありますO美術館の館長も務めさせていただいています。品川区における文化的なさまざまな意味、質の向上、そのようなことを、5年先10年先を考えながら、より良い内容を提供できればということを考えています。いろいろと館長の職で4年ほど経験を積ませていただきまして、見えてきたことは、割合いい可能性があることは、行政の壁、企業の壁、コミュニティの壁など、どうして簡単にいかないのか、歯がゆい思いや理解に苦しむような内容など、そのようなことがまだかなり蔓延しています。ですから、いろいろな文化、それから今までに育ってきたり、培って傳承されているなどという品川ならではの文化内容なども捉えながら、5年先10年先といいますと、いろいろな点で多様性、民族など、いろいろなことで新しい文化もこの品川には芽生えたり育っていくということがありますので、いろいろ皆様のご指導をいただいで、より良い文化の提供を目指して勉強していきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

■委員

観光協会は昨年20年目を迎えました。20年前に観光というキーワードで品川のまちづくりをしていこうではないかということで、品川の各地域から20人ぐらいの人が集まりまし

てつくりました。そのキーワードが、町といく品川を愛する、品川に住み続ける、そのキーワードはやはり、観光というキーワードの中におもてなしということがあります。おもてなしをするということは、取りも直さずそこに温かみや人間味、そのようなものがなければいけません。それからもう一つは、人が住み続けるということですので、そこに最低限のインフラがなければいけません。そのようなものを皆さんでつくり上げていこうではないかということをつくり上げました。そのようなことですので、皆様方ご承知のように、来年はオリンピックですので、オリンピックの後も品川のインバウンドを大きくするために、何らかの政策を講じていかなければならないと考えています。ぜひその辺も皆様方のお知恵をお借りしながら、一緒になってやっていければと思います。よろしく願い申し上げます。以上です。

■委員

現在、私たちスポーツ推進委員としまして、33名で活動しています。品川区のスポーツ環境をつくるためのコーディネーターや、それから教室を開くなど、運動されない方をどのように健康で楽しい生活をしていただけるかと思いながら考えてやっています。今はオリンピックが来年ですが、いろいろとオリンピック関係でスポーツ事業はいろいろと盛んにやっています。私は親子やお年寄り、それから障害者に対して体操教室を開きながらやっていますが、とてもやりにくい環境にあるかと思って、これをどのようにしたらいいかと日々考えています。品川区のこの人口の中で、大きな体育館が二つしかありません。小さな体育館や学校の体育施設を利用させていただいていますが、なかなか学校は普段昼間の時間は使えないということで、子育て世代のお母様たちのスポーツ環境、それからお年寄りもなかなか難しい環境にあります。それから、今もお話が出ましたように、障害者の方たちが、自分たちの住んでいる居住地でスポーツができるという環境がなかなか整っていません。

いろいろやっていますが、総合体育館と戸越体育館の2カ所でやっていますが、それでは全然足りません。ですから、その辺のところを皆さんと考えて、これから障害者も増えてきますし、私もいつ障害者になるか分かりませんから、皆さんとこれから考えていきたいと思いますので、ぜひよろしく願いします。ありがとうございました。

■委員

はじめまして。今年の成人式実行委員を務めます。成人式はあと5日後なので、今からハラハラドキドキしながら準備しています。司会をするのですが、このような中、人前で話すのも、今も少し不安がありますが、当日は2、3,000人の前で話すので頑張りたいと思います。この中でも多分僕が一番若いと思うので、一若者の意見として何か意見が出せたらと思っています。よろしく願いします。

■委員

会派の中でも今回、長計の策定というところでの考え方をさまざま話してまいりました。やはり言葉ではよく聞くことですが、持続可能なまちづくりをしっかりと考えていかなければならない中で、では、それはどのような意味なのか、ということをも自分なりにかみ砕いて考えたときに、まずは基本的な計画を立てるにあたって、しっかりと次世代につないでいくための計画にしなければならないと思っています。多くの団体の方々、そして地域の方々、本日同じ委員としていらっしゃいますので、さまざまな意見をお伺いさせていただきながら、また、私たち会派の人間も町場からしっかりと声を拾い上げてこの場に生かせればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

■委員

私は10年前のこの長期基本計画の策定にも委員として参加させていただきました。しかし、その10年を考えると、その後5年後にはやはり時代の流れが早くて、長期基本計画も改訂版をつくらうということになりました。その中で実施計画は3年で組んでいくということでありまして、我々は皆さんの声を聞いて実施計画をいかにつくって、それを実現に向けていくかということ常々考えながらやっていかななくてはと思いました。

その中で、今日人口動態を提出していただいて思ったことを言いますと、高齢者がどんどん増えていく、子どもたちの保育も非常に大切、子どもの政策もどんどん、出生率を高めるということがこれから出てくるのだらうと思います。でも現実問題をよく考えると、ここの部分の経常的な経費はどんどん膨れ上がっているのが品川区の現状だと思っています。これからも今この人口動態を見れば、これがまた増えていくのだらうと思いました。そうすると、ではどこにお金を投資していくのか、そう考えると、品川区が一番これはやってはいけないと思っているのは、総花的にお茶を濁すような、少しずついろいろなところへ手当てをしていこうというのはあまりいいことではないのではないかと私は思います。そこで皆さんからいろいろご意見を聞いて、実施計画のときにはやはりある程度自助、共助、これをまず前提に考えながら、公助的には集中的にある意味いろいろな支援をして投資的経費を使っていく、これをしていかないと品川区は活性化できないと私は思いますし、このようなことをしていくことによって、活力ある品川をつくれる、品川に住んでいて良かったと実感できる品川ができると私は思います。そういう意味の最初の計画だと思っていますので、私もぜひこれが政策として実現できるように努力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

■委員

超高齢社会の中にあって、この10年間の次の長期計画策定にあたりまして、SDGsの理念に基づいた誰も取り残さない品川区というこの視点に則ったこの策定が必要ではないかと考えます。特にこの近年、想定外といわれる災害が頻発する中で、品川区の中でどう安

心安全に暮らしていけるのか、品川区の防災力の向上、そして区民一人一人の防災力の向上も必要かと考えています。この次の10年間は高齢社会の中で庁舎移転の議論も上がっています。また、先ほども出ていましたとおり、多様な働き方や多様な生き方など、これからこの10年間今までにない考え方で取り組んでいかなければいけないのかと思っています。そして、品川区が掲げているこの、住みたい町品川、から、住み続けられる品川、というこの視点でぜひ取り組みをしていきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

■委員

長期基本計画の策定にあたり、重要と思う視点を述べたいと思います。まず、憲法と地方自治を計画の上位に位置付け、地方自治の本旨であります住民福祉の向上を明記することです。現状の品川区における障害者・高齢者福祉施設の整備率は、率直に言って、東京23区の中でとても遅れています。例えば、特養ホームと老健施設の合計整備率では、品川区は23区で23位と、高齢者人口比の整備率が最低です。人口推移を踏まえても、整備の加速が急がれています。整備目標を掲げ、特養や老健、障害者施設などの増設の加速、各種事業の充実、また少子化克服へ認可保育園の増設や経済的負担の軽減、子どもの貧困対策が必要だと思います。また、昼間人口の増加を踏まえると、防災対策では住宅耐震化や避難所改善と合わせて、帰宅困難者対策も重要な視点だと思います。一方、これ以上の駅前超高層再開発事業などハコモノ事業や、特定整備路線など道路事業は、住民を追い出し、町を壊す計画なので、もうやめるべきだと思います。また、区政を進めるにあたって、トップダウンではなく、住民に開かれた品川区政へ、区民の参加、情報公開の実現を抜本的に広めることが急がれると思います。政策決定過程における国民参加、情報公開を徹底し、多様な区民意見の反映へ、パブリックコメントの住民説明会を開催する、ワークショップやグループ討議を開催する、区のホームページの充実と合わせて、区民、住民への情報公開手数料無料化は欠かせないと思います。また、住宅街を低空で飛行する羽田新飛行ルート計画があと1年と迫る中、多くの住民から計画撤回を求める声が上がっています。計画撤回へ、国との交渉や近隣区との連携、住環境への影響調査、区民世論の実施、区民と協働した取り組みを位置付けるべきだと思います。最後に、LGBTなどセクシャルマイノリティの差別禁止と理解促進を明記し、社会の多様性を受けとめ、誰もが自分らしく生活し、働くことができる、そのような品川区を目指すことを、全体計画をつらぬく視点として新たに追加することが必要だと思います。

■委員

今後の少子高齢化、また、地球環境、住環境、そして、労働環境など、さまざまな時代の流れによって変わってくるこうした課題を乗り越えるために、一生懸命、意見を述べさせていただきますので、どうぞよろしくをお願いします。以上です。

■委員

私ども行政側の委員とすれば、実務的なことをどの程度計画の中でできるかということになるかと思えます。たまたま今回の人口推計の中の5番にあります、現行長計改訂時に私は事務局にしまして、人口推計がこれだけ間違えていると、なかなか何を言っているのかというのがあります、今回の人口の推計では、今後、どの階層も伸びるということの中での議論ということになると思えます。

それが日本全体としてみれば、人口減少傾向あるいは少子化高齢化が進んでいくという中で、そういったことを含めてどのようなことを考えていけばいいのかということをおっしゃっているところだと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

■委員

10年前の長計のときに、輝く笑顔、住み続けたいまち、しながわ、という目標が掲げられて、自助、共助、公助で考えていきたいと思いますという言葉がこの策定委員会で出たときに、区民の委員の方々が、今まで至れり尽くせりで何でも区役所がやってくれていたのに、なぜ自助などという言葉がこの長期計画の策定の大事な考え方として言うのですか、というご意見が出ました。そのくらい前回の長計の検討、10年前というのは、区民の皆さんが行政に頼っているという大変ですが、まちづくりは行政が中心にやってくれるものという、ある意味安心感というか信頼があった中での前回の長期計画でした。前は地域振興事業部長で参加させていただいていましたが、今までの10年の中の一番の大きな変化は、役所は限られた時間だけれども町は24時間営業だと言って、町の方がこの長計の中で検討されて、計画に盛り込まれなくても、大事な課題としてここで出たことについて、自分たちがやれることは自分たちで行動を起こそうという各分野の動きがとてもたくさん出てきたことです。長計のこの検討委員会の意味というのは、ここで出た皆様方のお気持ちや提案、それから課題というものは、長計の中に盛り込まれて計画の項目になる大切さと、それから区民の皆さんにここで検討したことをお知らせして、行政がやるべきことと町の皆さんがやっただけを一緒にやっていくという、そのような投げ掛けもこの長計の皆さんのご意見の中には大事な意味としてあるのかということを実感しています。ぜひ活発なご意見を聞かせていただき、行政としても、それから町の皆さんにも、皆さんのご意見をお伝えしていけたらと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

■委員

品川区のさまざまな教育施策、これまでプラン21を中心に進めてきた施策等も全て、長期基本計画との連動の中で行ってきた経緯があります。現在進めています品川教育ルネサンスにおきましても、新しい学事制度審議会を踏まえた学校選択、そしてコミュニティ・スクールの推進、学習指導要領の改訂を踏まえた教育要領の改訂、このようなことも、この長期のさまざまな計画に基づきながら、またその充実を図っていかなければならないと

考えているところです。今回 10 年後の姿、特に子どもたちの育成というような視点で、この会でもさまざまなご意見を頂戴できればと考えています。よろしくお願いします。

■ 参与

私は法学部というところに籍を置いて、何の専門家なのかと思われるかもしれませんがコミュニティの専門家です。品川区とのお付き合いは、数年前に町会・自治会に関する検討会をやらせていただきまして、その後教育の仕事をしました。たったそれだけの経験しかなくて、品川についての勉強はまだ十分追いついていませんけれども、今回、長期計画を策定するという仕事を、大規模でかつそうそうたるメンバーが集まられている会議だとは全然知らずに、ここでもう少し勉強しないといけないと思っています。品川区に長く住まれている方や、そこで頑張っていらっしゃる方に学びながら進めたいと思います。

今日ご説明いただいた資料の中で、私が研究していることとの関係で、これから外国籍市民の方が増えていくということ、それから 1 人世帯が非常に増えていきます。1 人世帯というのは町会・自治会の加入率が極端に低い、どうしても町会に参加して活動できない感じの生活になってしまうものですから、そういう意味でもなかなか地域社会としてもいろいろな課題がこれから増えていくと思います。他方でプラスのこともあります。この間品川区が掲げてきた施策が功を奏してか、生まれてくる子どもが多くなっているなど、それから今日はデータがありませんでしたが、品川区の町会・自治会の加入率も東京都内では比較的高いですし、いろいろお話を伺うと非常に優れた活動をされています。そのような財産があります。財政も先ほどどなたかご指摘ありましたが、健全でかつ豊かで、いろいろな手が打てるということで、この長期計画が非常に楽しみなことなのではないかと非常に期待しています。一参与としてご協力してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

■ 参与

私は幼児教育や保育、それから子育て支援分野でいろいろ知恵を出せということで、ここに座らせていただいています。よく言われることですが、今後のまちづくりはまさに温故知新で、品川の伝統文化、良いものを大事にしながら、しかしこの変化の時代にどれだけ大胆に改革にチャレンジできるかということだと思っています。そのような意味で一つだけ少し、全然真逆なエピソードをご紹介しますので、お願いします。

実は昨日、一昨日私は北海道の別海町という、中標津市の隣の非常に寒い、かなり遠いところに行っていて、パネルディスカッションのコーディネーターですが、人口が 1 万 5,000 人、面積が東京 23 区二つ分の面積ということです。これが 2040 年に向かって 1 万人少しまで 3 割ぐらい減っていくという、品川区と全く真逆の状況です。牛が 13 万頭ということですので、もうすぐ人間の 10 倍の牛がいるという地域になるわけです。酪農中心

の町ということで、私も初めて知りましたが、酪農というのは牧草をつくらなければいけないので農業である、でも牛を飼わなければいけないので牧畜である、同時にそれを搾乳して輸送して搬送しなければいけないので商工業でもある、それを一つの酪農家が全部やるということで、極端に言えば 24 時間 365 日旅行も行けない、休みも取れないという世界で、かなり厳しい世界だったものが、仲間が集まって分業体制をつくって、牧草に特化するグループ、それから酪農メインのグループ、それからそれを運ぶというような形で、自分たちで出資をして会社会的なものをつくって、かなり合理化をして、人材も逃げていかない仕事をつくっていく、最近その中で AI やロボットがかなり普及しはじめて、搾乳ももちろん搾乳ロボットでやっているようです。牛は常に乳を出さなければいけないので、産んで乳を出してしばらくすると乳が採れなくなる、そうするとその間牧草だけ食べてコストがかかりますから、その期間を短くするためにさまざまな先進技術を使ってベストタイミングで発情させて、そこでマッチングをして、切れ目なく乳を出せる牛のような、そこまですはやっている状況です。

一方で、もう一つ人づくりで、これは非常に矛盾した話ですが、あまり学力を高める意向が強くありませんでした。なぜかという、そのような人口減少地域の田舎で学力が高まると、その学力が高まった子どもたちが札幌や東京に行って帰ってきません。

あまり学力を高めると、むしろ町から人が逃げていくので、ほどほどにしようということで頑張っている発想だったそうです。ところが今は全くそれが変わって、もうこれからは学力観も違う、いわゆる非認知能力を中心に新しい子どもたちの能力を高めていくと同時に、新しい郷土愛を持ってもらって、もっと素晴らしい人材育成をして、逆にその力をもっているいろいろな人とつながって、この町で活躍できる人材に光をあてていこうという発想に変えて、そういうチャレンジを始めたということです。品川とは全く真逆の地域ですが、日本中がこれから変わる中でいろいろなチャレンジを始めています。そういう意味で品川もぜひ新しい発想で新しいまちづくりを、いろいろなお立場の委員の皆様方から活発にご議論いただいてビジョンができればいい、そのお手伝いを少しでもできればということで参加させていただいています。

■ 参与

参与の中でも工学部系ということで、少し毛色が違うかといったところですが、学部は理工学部です。学科は非常に珍しい交通システム工学科というところに籍を置いています。なかなか分かりにくいかと思いますが、人、物、情報、これをどのような形で安心、安全、あるいは快適にという形でつなぎ上げる基盤をつくるかといったようなところで関わっています。そのような中で、今委員の皆様方のお話を伺ってまいりますと、都市的活動の中の暮らす、あるいは働く、あるいは憩うといった、それぞれのところを各専門の方たちの取り組みとして関わられていく、私はどちらかという、そのような、働く、暮らす、憩う、その基盤をどうつくり上げるかといったところに関わっています。その関係があり

まして、どちらかといいますと、この品川区で関わらせていただきましたのは、先ほど少しお話がありましたが、バリアフリー基本構想に関わらせていただいています。実際にそのバリアフリーのときには、品川区の場合には、どちらかというモデルケースといえますか、都市的な拠点と、それからもう一つ生活の拠点といったその2カ所を例示した形の中のバリアフリーを進めているのですが、一般的には全区域を対象にした中の考え方をつくって、個別ケースを考えるというアプローチを取っています。そのような中では、この品川区のところは、問題を特化型で見えていって、それを拡大的に広げていくという方針を取っています。その中では、一つ問題があるところをしっかりと捉えた中で、その問題点をあぶり出した上で次につなげようという、そのような性格があるのかということに関わらせていただきました。そのような中では、かなり現状認知型で将来を考える、どちらかというフォアキャスト型といえますか、そのような傾向がありますが、長期の場合にはやはりバックキャストといったような形で、長期の中から割り戻して考えたときに、今本当に何をしなければいけないのか、そのときに必要な私どもでいうとインフラというような基盤をどう支えていったらいいのかということを常に意識しなければいけない、そういうことでこの計画の中に少し関わらせていただければありがたいと思っています。

もう一点ですが、先ほど自助、共助、公助というキーワードが出てきました。私は都市基盤に関わっていますけれども、人が大好きですので、最近地方自治体の中のいろいろな住民との関わりを持つような業務にも関わらせていただいています。その中で、今のこの三つの助けるというプラスに、地方都市ではかなり互助という仕組みの中で、先ほどのお話しにありましたコミュニティといった形の中で、自分たちで地域性を確保していくような仕組みを互助の活動の中で支えていく、そういったものを行政がどうサポートしていくのか、そういった中では住民が協力あるいは参加していく時代から協働していく、あるいは連携していく時代、さらにもう一つ言うと、もう一歩進んだ形で、住民が判断をして住民が責任を持つような取り組み、ここまで発展させないとなかなか長期の基本計画といったものをつくっても、構想だけの形で実現性につながっていきません。いかに住民と関わる場面をこの基本構想の計画の中に盛り込んでいくのかといったところも、若干人間くさいところもぜひ関わっていきたくたいと思っています。

今後、いろいろな形の中で発言をさせていただくことになると思いますが、どうぞよろしくをお願いします。

■ 参与

清泉女子大学は品川にあります。文学部単科大学というはもう非常に少ない学校ですが、その中に地球市民学科という、これは日本に一つしかない学科ですけれども、そういう学科を20年ほど前につくりまして、そこで教鞭をとっています。当初、女性は良妻賢母という形で育てられたのですが、新しい世紀を迎えるにあたって、社会で活躍できる女性を育

てるということで、実は品川区とも15年ほど包括協定を結びながら、地域に学生たちを出して行って、地域でいろいろな活動に関わりながら世界の現状を考えていこうという形で活動しています。今年は品川区ですと、オリンピック・パラリンピック準備課と、品川観光協会と一緒に品川のお宝探しをしています。そういうことで、品川に対して学生をどんどん出していくことで、品川のことを学んでもらっていますが、学生にずっと品川の人口は2020年で減るということを私は言い続けていました。今日この推計を見ましたら、全くそれはうそだということで、これは学校に戻ってごめんなさいということをする必要がありますが、この表を見ますとだいぶうれしい変更ということで、素晴らしいと思いました。ただやはり、中を見ますと、子どもたちはあと17、8年くらいで減っていきます。それまで増えて、減っていきます。それから高齢者はずっと増えていくということで、今、品川では小学校中学校の建て替えの時期を迎えているということで、この学校を今後どうしていくか、一度建て替えると50年くらい使うということですから、子どもたちが減っていったときに、その学校をどうやって使うのか、高齢者は増えていくとなると、どうしても複合的な施設を考えなくてははいけません。もちろんハードの面ではそうですが、ソフトの面としてどうやっていくのかという問いがあります。行政は縦割りだから、その点は結構厳しいです。その辺をこの委員会でいろいろと考えていければと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

■副委員長

私は品川区民ではないですから、よく分かっていないので、とにかく皆さんの活発なご議論、区民の知見を反映した議論が進んでいくということ、期待ではなく、進めるように努力していきたいと思っています。仕事柄、中央区や豊島区、川口など、いろいろなところで総合計画の策定に関わることがあったわけですが、現在地方自治法が改正されて、必ずしも基礎的自治体としても総合計画を策定しなければならないという義務もなくなってきた、全国的には10パーセントぐらいの基礎的自治体が総合計画をもうやめてしまおうという動きもあるような中で、先ほど区長からありました計画的に行っていくことの意味がやはりもう一回問い直されているのではないかと思います。今もご発言がありましたように、そもそも人口推計が外れる、したがって長期を見通すことが非常に難しい、しかしだからこそ長期を見据えたバックキャストが絶対必要になる、分からないからやめるというわけでもないけれども、分からないのにやると外れる、このような悩みの中で総合計画ないし長期計画をどのようにつくっていくのかということが、まさに区民の知恵が問われているというところかと思っていますので、良い計画をつくっていきたくています。

そのときに、他の総合計画、いろいろな市区町村によって作り方は違いますが、この審議会は先ほど出ていましたがこれほど人数がいるということはかなり特徴的な仕組みであって、そうすると皆さんが発言していくと、どうしても時間が足りなくなっていくと思います。

そうすると、何となく相互に発言を抑えがちになるかもしれません。それではもったいないので、その辺は委員長が見事な司会運営をして、まさにこの時間に収めるということを当然やらなければならないわけですが、同時に多くの方がいらっしゃる中で自由闊達な議論をどうやってつくっていくのかというのが、今回の非常に大きな課題ではないかと思っています。

それから、それとも非常に関わりますが、総合計画や長期計画というのは、全部の分野を全部集めるという非常に特殊な計画でありまして、総花的になりやすいというご意見もありましたが、そのような傾向をもともと持っているということがあります。それとともに、委員の関わりがとても難しいのは、自分は特定の分野はいろいろ活動していて知っているけれども、他の分野をあまり知らないというときに、どうやってここの場にいるのかというのが非常に難しいと思います。それと同時に、団体を背負っていると、おまえ言っでこいと、これを勝ち取ってこいと後ろから言われたりすると、分取り合戦になってしまうということもあって、非常に難しい会議体だと思います。しかも人数が多いから、とにかくここで一言言っておかないと、おまえこの前の会議で黙っていたのか、と言われたら困るという立場になる場合もあります。しかしそれは変な話で、このような全ての分野を包括した計画の非常に重要なところは、他の分野の方の発言をどれだけ持って帰れるかということと、それからお互いに議論できるのかということとをぜひ進めていくことをお手伝いできればと思っています。分野別の計画は、もっと人数の少ないところで、気心の知れた人同士で濃密に進めるということができると思います。それは非常に大事なことです。この場は他の分野のいろいろ全然自分の知らないような、私は何も知らないで全てが知らないことですが、知らないことも含めて闊達に議論を展開するために、多くの人数がどうやって限られた時間でやっていくのかということは、事務局と、あるいは委員長と一緒に、何とか知恵を出していきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

■委員長

ありがとうございました。今日は皆様のご協力で、おかげさまで大体時間どおりで進行させていただきました。今日はあくまでもお互いの声を聞くということで、全員の方に大変失礼ですがお話をいただきましたけれども、次回以降はテーマ別になりますので、次回はまだ全体ですが、次回も全員の方ということはしません。今も副委員長からもお話がありましたが、どんどん手を上げていただかないと私は指しませんので、次回以降はそういうことでご理解いただきたいと思っています。

それから、私も一つだけコメントさせていただきますと、人口は当たらないというのは、私がやっていた東京都でも当たったためしがありません。どうしても人口というのは、全国の中でいろいろ動いていき、人々の意識や町のつくりなどで流動していきますので、これはもうやむを得ないことです。とはいえ、計画ですから、一応の想定をして、それでやっていって修正していくということはどうしても必要なことで、当たらないからけしから

んということはないと思います。ちなみに東京都は、1995年の東京プランでは、2000年がピークで、それ以降は減り始めると、はっきり正式な計画で宣言して、議会の承認も得たのですが、2000年が近づいてきたら2005年がピークですと言って、2005年が近づいてくると2010年ですと、国勢調査が5年ごとなので5年ごとに延ばしてきて、今は2025年がピークと言っています。それで誰も文句は言わないというのが人口問題だというように、これ以上は言いませんけれども、ご理解いただければと思います。一応の想定をして、それでいろいろ目論見を立てるといってご理解いただければいいかと思います。

それから、バリアフリーの問題とLGBTのお話が随分たくさん委員の方から出て、今後の課題になるのかと思います。実はオリンピックでいいますと、せっかくオリンピックの追加種目で日本は一生懸命野球を取ったのですが、東京オリンピックですけれども、東京ドームでは野球はやりません。なぜかという、今日お話が出た車椅子席が17席しかないからです。これは、ニューヨークのヤンキースタジアムはご承知のように車椅子席が1,500ありますので、そのように作り変えると、根本建て直しということをしなければいけないので、まだそういう期限がきていませんから、今回はせっかくなのですが東京ではやらないということになります。その種のことがこれから多分、今日は移動の問題が出ましたが、それももちろんですけれども、同時に区が持っているホールや劇場のようなもので、完璧に、完璧ではなくてもいいのですが、対応しているかどうかというのも、これから一気に、オリンピック、パラリンピックがありますので、話題になってくるのかと思います。皆さん問題意識を持っていらっしゃるって、とてもいいと思います。外国人労働者の受け入れ問題もそうです。

9. 今後のスケジュールについて

10. 閉会

以上